

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	静岡大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シズオカダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F122110106224
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	静岡県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	ABPインターンシップ
	学部・研究科等名	国際連携推進機構
	担当教職員名・役職	佐々木良造：特任准教授、池田聖子：特任准教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	39
	受入企業等数	24
	受入企業等名	(一社)地域振興交流協会、しずおか焼津信用金庫、(株)ぶどうの木、しずおかコンシェルジュ(株)、三菱重工業(株)、A.I.S(株)、ASTI(株)、(株)赤坂鐵工所、(株)ヴォンエルフ、エム・ビー・エーインタナショナル(株)、(株)サンロフト、三栄ハイテックス(株)、(株)長峰製作所、(公財)浜松市文化振興財団、やまと興業(株)、遠州信用金庫、遠州鉄道(株)、遠鉄システムサービス(株)、(株)エヌエスティー、(株)榛葉鐵工所、(株)横田輪業、(一社)静岡県大学出版会、浜名部品(株)、(株)本山農場
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップ先の企業等課題解決に取り組み、観光(インバウンド誘致)、輸出(地場商品のPR)等の課題について、留学生の視点で解決策を考え、社内プレゼンテーションを行う。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位

	2-5.上記回答内容に関する詳細	教養教育基礎科目「ABPインターンシップ」2単位を学部1年から実施できるインターンシッププログラムとして開講している。なお、本学アジアブリッジプログラムの留学生は必修科目である。本科目では、学生が卒業後の進路を見据えてインターンシップ先を開拓・選択することを促し、年間を通じて開講している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ中に、学生からのE-mail、または口頭での報告を受けている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップ先として選択した企業の歴史、理念、業務内容についてまとめ、インターンシップ先で何を学びたいか、自身の将来像と重ね合わせて考え、1600字程度のレポートとして提出させている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	インターンシップ中の日誌を見て、事前にまとめた内容と比較しながら、インターンシップ中に学んだことを振り返る。振り返りの内容をレポートとしてまとめ、さらに別の機会に対面またはオンラインでプレゼンテーションを行い、インターンシップについての第三者から意見コメントを求めると同時に後輩へのアドバイスをを行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ実施状況について、学生から報告を受けている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	インターンシップの事前・事後にレポート作成を課し、インターンシップを通じて学んだこと、事前に学びたいと思っていたことについて振り返りを促している。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している

要素⑤		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	10日間のインターンシップに参加している。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	複数企業で計6日間のインターンシップに参加している。
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	10日間のインターンシップは、株式会社ぶどうの木、一般社団法人地域振興交流協会等で実施しているものである。 しずおか焼津信用金庫が実施するインターンシッププログラムに参加し、複数企業で計6日間のインターンシップに参加している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	仕事に取り組む姿勢に関して9項目（挨拶・反応する、仕事の正確さ、処理スピード、仕事への準備、報告する、訊く・尋ねる、確認する、考え工夫する、言葉・表現）を各3段階（A-優れている、B-問題ない、C-今後の努力を期待する）で受入企業が学生を評価している。担当教員が当該学生に受入企業からの評価のフィードバックを行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/referenceDirect.do?nologin=on&subjectID=214400087539&formatCD=1 https://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/referenceDirect.do?nologin=on&subjectID=214300088720&formatCD=1
問い合わせ先	大学等名	静岡大学
	担当部署名	国際交流課
	担当者役職名	グローバル改革担当専門員
	担当者氏名	真野 雄司
	電話番号	054-238-3065
	メールアドレス	mano.yuji@shizuoka.ac.jp